

インフルエンザ情報

国立感染症研究所感染症情報センター（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>）は、「インフルエンザ流行マップ第11週（3月11日～3月17日）平成25年3月21日現在」を平成25年3月25日に公表した。

（コメント）

2013年第11週の定点当たり報告数は8.13（患者報告数40,091）となり、第5週以降減少が続いている。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約41万人（95%信頼区間：37万人～45万人）とこちらも第5週以降減少が続いている。年齢群別では5～9歳約9万人、10～14歳約6万人、0～4歳約5万人、30代、40代がそれぞれ約4万人の順となっている。また、2012年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約1,221万人（95%信頼区間：1,191万人～1,251万人）であった。

都道府県別では愛知県（22.51）、岐阜県（17.80）、山口県（17.46）、鹿児島県（17.42）、福井県（16.25）、石川県（15.79）の順となっている。45都道府県で前週の報告数より減少がみられた。

全国の保健所地域で警報レベルを超えているのは117箇所（33道府県）、注意報レベルのみを超えているのは50箇所（29府県）と共に減少した。

2013年第6週から第10週の国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、AH3亜型（A香港型）の割合が最も多く検出されている一方で、B型の検出割合が増加してきている。詳細は感染症情報センターホームページ（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html#graph>）を参照されたい。

なお、第07週～第11週までの都道府県別の定点当たり報告数の推移【感染症情報センター発表の「感染症発生動向調査週報」等を基に機構で作成】

※定点とは、発生動向調査の観測用に選ばれた医療機関のことで、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されています。

